

Gikyohan Times

No.0004

岐阜県教販通信

2020年9月発行

岐阜県の学校現場の皆さんと考える 「コロナ後」の教育

当社は岐阜県の全小中高校に紙の教科書を供給し続けて100年以上の会社です。今後紙の教科書、教材、指導書がデジタルに変遷していく、教育のITC化、オンライン化していく中、当社として教科書に関する様々な情報を「岐阜県教販通信」として提供していきます。今回のテーマは「コロナ後」の教育の第三弾として引き続き寺脇研氏に提案して頂きました。是非ご一読くださりコロナ後の教育に役立てればと思います。今後とも岐阜県教販通信をよろしくお願いたします。通信のバックナンバー及び教科書情報は→<http://www.gifukenkyohan.co.jp>



寺脇 研 氏

寺脇研(てらわき けん、1952年～)元文部官僚。星槎大学大学院教育学研究科客員教授。官僚時代には文部省NO.1の論客でなし、ゆとり教育の広報を担った。福岡県福岡市出身

記録的な暑さだったこの夏、それにもかかわらず夏休みを短縮して授業時間の確保を図るなど、学校現場は相変わらず多忙を極めたことだろう。岐阜県の一部の地域が「全国で最も短い夏休み」と報じられるなど、各教育委員会や学校も、さまざまな判断で工夫をこらしてくれたようだ。そんなさなか、突然の安倍首相辞任のニュースである。さぞ驚かれたに違いない。現時点では後継の首相は決まっていないが、ただ、誰が新首相になっても、コロナ対応や教育政策に急激な変化があるとは思われないから、そこは安心していただいでよさそうである。なにしろ、今年は小学校、来年は中学校、再来年は高校と、日本中の学校は約10年に1度の新学習指導要領への切り替えの最中だ。政治の動きと関係なく、「主体的・対話的で深い学び」の実現に邁進する必要がある。高校は、大学入試改革の迷走で3年生の進路指導に大わらわだろうが、小学校は指導要領の定着、中学校は来年度からの準備が最大課題と言っていい。もうひとつ、大きな変化は、いわゆるGIGAスクール構想の急激な進展である。学校一斉休業によりオンライン授業の必要性が叫ばれる中で、政府はこの実施を前倒しに急いでいる。

その結果、今年度のうちに、全ての学校で「児童・生徒1人1台コンピュータ」の形が実現しそうだ。これは、GIGAスクール構想を積極的に推進してきた経済産業省が文部科学省と連携して提唱する「未来の教室」プロジェクトにつながっていく。ただ、学校現場では、こうした大きな変化がまだ実感に乏しく、GIGAスクールって何？「未来の教室」って何？という感もまだまだ強いに違いない。

そこで、この周知を図るため、全国各地で「未来の教室」キャラバン2020が行われている。その一環として、9月22日(火・祝)13時から、「未来の教室」オンラインキャラバンGIFUが、岐阜県教育委員会、岐阜市教育委員会、飛騨市教育委員会の後援を得て開かれることになった。コロナの状況を勘案してオンライン開催となったから、むしろ、多忙な現場を抱える皆さんには参加しやすい形だろう。

私も、「登壇者」として皆さんの前の画面に登場し、文部科学省で指導要領の変遷を担当してきた者として、現場の側の立場から「未来の教室」の在り方について議論していくつもりです。多大な予算を使って整備されるGIGAスクールや「未来の教室」が、真に日本の子どもたちのためのものになるよう、意見を述べたいと思います。

詳しい内容と参加申込みは下記からなので、多くの皆さんの参加をお待ちします。

「未来の教室」キャラバン2020 申し込み HP→<https://caravan2020-6.peatix.com/>